

名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2022年度版)



USM（マレーシア科学大学）研修報告



<p>活動の概要</p>	<p>USM短期研修は「グローバル未来都市共創に資する次世代研究者エンパワメントプログラム」の一貫です。同プログラムは、すべての研究科のあらゆる研究分野の博士後期課程・博士課程学生を対象に選抜を行い、経済的な支援を行うとともに、学生個々の着実・堅実な研究力に上乘せる形で「プレゼン力」「交渉力」「合意形成力」「行動力」というスキルセットを獲得させること（エンパワメント）を目的としています。今年度より始まった本研修では、現在まだ顕在化していない問題も含めた、都市が抱えるさまざまな社会課題を通じてそれぞれの研究課題を俯瞰的にとらえる能力を鍛え、幅広い視野と情報発信力・交渉力を涵養することで、個々人のキャリア開発につなげるとともに、未来都市共創に資する新たな博士人材を創造することを目的としています。</p> <p>参加したのは、医学研究科から上木あかねさん、薬学研究科から藤田みのりさんの2名で、人間文化研究科の曾我幸代准教授と林敏博寄附講座准教授が引率しました。参加者は、事前にSDGsを学ぶ事前研修を受け、持続可能な社会づくりとは何かを考える機会をもったうえで、2022年9月12日から19日にかけて、マレーシア・ペナン島にあるマレーシア科学大学に赴き、約1週間の研修を受けました。この実施にあたっては、USMのJCC（Japan Culture Centre）の協力を受けています。</p> <p>USMでは、マレーシアが抱える文化・医療・難民・貧困・飢餓等の社会課題について、社会学部や生物学部の教授陣が講義をしてくださったり、難民が通う学校でのボランティア活動を行ったり、大学内にあるイスラム開発管理センター、麻薬センターや海洋センターを視察して、どのような問題を扱い、研究しているのかの概要説明を伺ったりしました。いくつかの講義や視察、市内のフィールドワークを経て、参加者は自らの専門知を生かして、最終プレゼンテーションを行いました。</p> <p>本研修の詳細については、別添の「USM研修レポート」をご確認ください。</p> <p>【参加した学生の感想（一部抜粋）】 研修では、マレーシアの歴史や貧困に関する講義の聴講、難民学校でのボランティア活動、研究施設訪問（ハラル、薬学、海洋学）などを行いました。今回の研修を通じて、人種や宗教が違っていても争うことなくお互いを尊重しあうマレーシアの多文化共生について理解を深めました。最終日のプレゼンテーションは、日本が今後多民族・多宗教国家になった場合、管理栄養士として私にできることは何かについて考える良い機会となりました。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2022年9月</p>

[USM研修レポート（PDF ファイル 0.52MB）](#)



難民学校の子どもたち



Centre for Drug Researchのラボ見学



センター長、事務官、パティとのお別れ会

SDGs将来世代創造フォーラム2022に参加



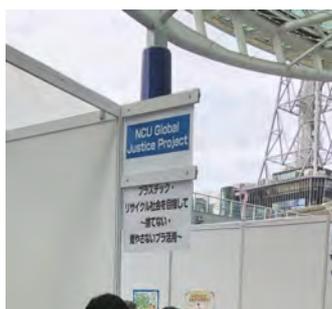
<p>活動の概要</p>	<p>本学は、2022年8月24日に吹上ホールで開催された「SDGs将来世代創造フォーラム2022」(アサヒ飲料中部北陸支社主催)に参加しました。当日は、「健康」「環境」「地域共創」をテーマに、産学官から約50のブースが出展されました。</p> <p>本学のブースには、人文社会学部曾我准教授と曾我ゼミの学生3名が参加し、「SDGs達成に向けて自分ができること」を考えるワークショップを行いました。</p> <p>また、本学のSDGsに関する様々な活動について、チラシやパネル等で紹介しました。</p> <p>【ワークショップ参加者の声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ自動車ではなく公共交通機関を使う ・異常気象、気候変動を防ぐために、エアコンと扇風機を合わせて使う ・自然災害に備え、防災に取り組む ・海洋プラスチックごみを減らすために、ビニール袋をもらわずにエコバッグをつかう ・貧困や飢餓に苦しむ人たちのためにフードドライブやフェアトレードなどに参加し、問題の解決に寄与する
<p>活動の時期</p>	<p>2022年8月</p>
<p>関連URL</p>	<p>アサヒ飲料中部北陸支社 「SDGs将来世代創造フォーラム2022」</p>



名古屋市消費生活フェア なごやエシカルフェア☆2022 に参加



活動の概要	<p>2022年11月26日、本学の人文社会学部の伊藤恭彦教授ゼミ「NCU Global Justice Project」が、オアシス 21銀河の広場で開催された名古屋市消費生活フェア なごやエシカルフェア☆2022に参加しました。名古屋市消費生活フェア なごやエシカルフェア☆2022は、SDGs達成のための消費行動であるエシカル消費をはじめ消費生活に関する様々な知識を学ぶため、消費者団体や事業者団体、学校、行政機関が一体となって開催するイベントです。</p> <p>本学から参加した「NCU Global Justice Project」のブースでは、ゼミの取り組みを紹介するパネルの展示の他、ゼミで現在作成しているプラスチックごみ削減のための段ボール製のリサイクルボックスの展示を行いました。この段ボール製リサイクルボックスはレンゴー株式会社豊橋工場との連携によって作成しました。</p>
活動の時期	2022年11月
関連URL	名古屋市消費生活フェア なごやエシカルフェア☆2022パンフレット



Modern Marine Issues (本学SDGsアンバサダーの活動紹介)



活動の概要	<p>【本学SDGsアンバサダーである学生グループ「NCU Time to Act Now」の活動紹介】</p> <p>近年、プラスチック廃棄物問題は、世界最大の環境問題の一つとなっています。私たちは、SDGsの目標14「海の豊かさを守ろう」、その中のターゲット2「2020年までに、海洋沿岸の生態系を持続的に管理・保護し、健全で生産性の高い海洋を実現するためにその回復に向けた行動をする」をプロジェクトの目的として選択しました。そして、具体的な問題を世界と日本の両方の側面から調査しました。その後、ボランティア活動を探し、参加しました。グリーンバードという団体と一緒に、地面に落ちているゴミを集めました。また、エコパル名古屋という施設では、プラスチックゴミからキーホルダーを作りました。これらの活動を通して、海に流れ込むプラスチックゴミを減らすことに貢献することができました。また、日常生活から環境問題について考え行動することができるようになりました。</p>
活動の時期	September 2022 - January 2023
関連URL	NCU Time to Act Now Instagram account



Save the Sea 海をきれいにするために私たちができること（本学SDGsアンバサダーの活動紹介）



活動の概要	<p>【本学SDGsアンバサダーである学生グループ「NCU Time to Act Now」の活動紹介】</p> <p>私たちはSDGsの14番目の目標「海の豊かさを守ろう」に取り組みました。私たちは2つのボランティアワークをしました。</p> <p>2022年12月3日に海と日本プロジェクトのために新舞子マリンパークへ行きました。海と日本プロジェクトでは何か青いものを身につけなければならなかったため、青いものを身につけて参加しました。ここではプラスチックや紙、木などが海に捨てられていた様々なごみを集めた後、集めたゴミの写真を撮り、#umigomiをつけてTwitterに投稿しました。</p> <p>2022年11月28日には木曾川に行って全国川ごみネットワークで近くの川で取り組みをしました。川沿いを100mほど歩いてそこで見つけたプラスチックやペットボトルなどの様々なゴミを見つけ、その見つけたごみの種類とそれぞれ何個ずつゴミがあったのか、またそのゴミがその場所にある理由について全国川ごみネットワークが準備していたGoogle formにその調査の結果を報告するとともに、そのようなゴミがある理由についても考えました。</p>
活動の時期	September 2022 – January 2023
関連URL	NCU Time to Act Now Instagram account



環境デーなごや2022パートナーシップ事業として地域 美化活動を実施



環境デーなごや2022パートナーシップ事業の一環として、2022年6月3日（金）に桜山（川澄）キャンパス周辺の地域美化活動を行いました。

当日は、生き物との共生・脱炭素社会の実現・循環型社会の構築などをテーマに、それぞれの地域で清掃活動や環境学習などを実施する「地域行事」として、SDGsセンターの林センター長を含む教職員と学生13名が、キャンパス周辺の清掃を行いました。

環境デーなごやの詳細については、以下のサイトをご覧ください。

[「環境デーなごや」のホームページ](#)



人文社会学部現代社会学科・社会調査実習報告書『水環境を中心とする市民・市民団体・行政の関わり方一庄内川・山崎川・鳥川・恵那峡を事例に一』の刊行



活動の概要	<p>人文社会学部現代社会学科では、毎年、社会調査実習という授業を開講しています。各担当教員の指導のもと、中京圏の様々な社会問題の現状と課題について、社会調査を行っています（例：メディア報道、地域コミュニティ・家族、労働、都市…）。このうち、馬渡班では中京圏の水環境が誰によって、どのように守られているのか、その現状と課題を、地域資料の整理・読解、現地フィールドワークや関係者への聞き取りに基づいて調べました。</p> <p>事例としては、学生の関心に基づき、豊かな自然を持つ広域的な都市河川である庄内川、生物多様性を目指した市民活動が行われている都市河川の山崎川、ホテル保護活動で著名な鳥川、水辺を活かした観光資源を有する恵那峡を選定しました。調査の成果について、この度、報告書『水環境を中心とする市民・市民団体・行政の関わり方一庄内川・山崎川・鳥川・恵那峡を事例に一』を取りまとめました。</p> <p>近年では、持続可能なより良い水環境を目指すための連携が行政、市民団体、地域住民等の中で志向されていますが、他方で水環境は人々や社会との関わりがなで、治水・防災・生物多様性・産業など、多様な価値観や人々の活動を映し出し、せめぎ合う場であり続けていることを学生たちは認識しました。また、人々がとりわけ都市社会で生活するなかで、自然環境の存在や環境との関わりが生活の後景に退いていることも改めて認識しました。特に後者の、市民の水環境に対する関心・無関心については、「市民の無関心」がどのような状態を示すのかを掘り下げながら、今年度も継続して調査していきたいと考えています。</p>
活動の時期	2022年4月から2023年4月まで
担当教員	馬渡玲欧（人文社会学部現代社会学科講師／SDGsセンター員）
関連URL	名古屋市立大学人文社会学部現代社会学科

名古屋市立大学人文社会学部
現代社会学科社会調査実習報告書
2022年度 第3分冊

水環境を中心とする 市民・市民団体・行政の関わり方 一庄内川・山崎川・鳥川・恵那峡を事例に一 〔 2022年度・現代社会学科調査実習報告書 〕

第3分冊

名古屋市立大学人文社会学部
現代社会学科